

# 令和4年度 鳴滝総合支援学校 学校評価アンケート(前期) 集計結果

生徒	実現度			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1 将来の夢や希望がある	40.3%	44.8%	10.4%	4.5%
2 共通教科で「わかった」「できた」と思うことがある	47.8%	41.8%	10.4%	0.0%
3 専門教科で「わかった」「できた」と思うことがある	53.7%	41.8%	3.0%	1.5%
4 職場等実習で「できた」「やりきった」と思うことがある	55.2%	41.8%	1.5%	1.5%
5 企業の協力により、職場等実習ができていることがわかっている	59.7%	34.3%	1.5%	4.5%
6 地域の協力により、校外演習ができていることがわかっている	43.3%	34.3%	16.4%	6.0%
7 いろいろな知識や技能が身についてきていると思う	50.7%	37.3%	7.5%	4.5%
8 先生は、なんのために勉強するのかをはっきり教えてくれる	61.2%	34.3%	4.5%	0.0%
9 先生は、わかりやすく勉強を教えてくれる	64.2%	32.8%	1.5%	1.5%
10 先生は、学習の成果について、伝えてくれる	47.8%	44.8%	7.5%	0.0%
11 学習の成果を知つて次の目標をたてている	34.3%	41.8%	20.9%	3.0%
12 卒業後の進路や生活について、先生や保護者と相談できている	19.4%	38.8%	31.3%	10.4%

13 自分からあいさつをしたり、ていねいな言葉づかいで話すことができている	29.9%	52.2%	16.4%	1.5%
14 病気や健康に気をつけながら、学校へ通っている	59.7%	32.8%	6.0%	1.5%
15 学校のきまりや約束を守っている	65.7%	29.9%	3.0%	1.5%
16 ともだちへのおもいやりをもり、お互いに協力している	49.3%	44.8%	4.5%	1.5%
17 学校や家庭で自分に任された役割があり、実行している	46.3%	37.3%	10.4%	6.0%
18 自分の長所がよくわかっている	46.3%	28.4%	11.9%	13.4%
19 自分は大切な存在だ、誰かに必要とされていると感じている	42.4%	39.4%	10.6%	7.6%

肯定的回答の割合が、平均で86.9%と高くなっています。特に項目4、9において非常に高い評価である。項目1、18、19については、前回(昨年度の前期)に比べ肯定的回答の割合が大幅に上がっています。ウズコロナの時代になり、学びの形態や生活面での制限が減ってきていることが、学ぶことの喜びや、より意欲的に学習・生活しようとする姿勢につながっていると考えられる。また校内研究の取組を通して生徒の自己理解がすすみ、学習面・生活面での自信が生まれてきた結果であるとも考えられる。項目12の結果については、しっかりと対応していく必要がある。相談したいけれどその機会を逸しているのか、そもそも相談したいと思わないのか、その必要がないのか。何を相談したらいいのかがわからないのか。いろいろ考えられるが、日頃の言葉かけや面談の持ち方等、必要なところは工夫・改善を重ね、今後も取り組んでいく。

保護者	実現度			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1 子どもは、将来の夢や希望を描けている	4.8%	60.3%	30.2%	4.8%
2 子どもは、共通教科で満足感や達成感をもっている	6.3%	74.6%	15.9%	3.2%
3 子どもは、専門教科で満足感や達成感をもっている	23.8%	68.3%	4.8%	3.2%
4 子どもは、職場等実習で満足感や達成感をもっている	33.3%	55.6%	9.5%	1.6%
5 企業のご協力により実習ができていることを理解している	54.0%	41.3%	4.8%	0.0%
6 地域のご協力により演習ができていることを理解している	39.7%	46.0%	12.7%	1.6%
7 子どもは、学校や保護者が必要と考える「生きる力」を身につけてきている	4.8%	65.1%	27.0%	3.2%
8 子どもの目標や学習計画に基づいて、計画的に指導や支援がされている	22.2%	68.3%	7.9%	1.6%
9 子どもが理解しやすいように、授業や教材に工夫がみられる	23.8%	68.3%	6.3%	1.6%
10 子どもの努力や達成度について、適切に評価されている	36.5%	58.7%	4.8%	0.0%
11 子どもが次の目標を持てるように評価されている	36.5%	58.7%	3.2%	1.6%
12 短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	41.3%	52.4%	4.8%	1.6%
13 子どもと卒業後の進路や生活について日頃から話をして共有している	19.0%	50.8%	28.6%	1.6%
14 個別の相談について、学校は保護者に適切に対応している	41.3%	55.6%	3.2%	0.0%
15 保護者として、本校の教育の趣旨や目的を理解している	28.6%	63.5%	7.9%	0.0%
16 子どもは、自分から挨拶をしたり、場に応じた言葉遣いで話すことができている	25.4%	46.0%	25.4%	3.2%
17 子どもは、健康な生活を送ることを意識して、自分なりの維持管理に取り組んでいる	20.6%	60.3%	14.3%	4.8%
18 子どもは、学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	34.9%	60.3%	4.8%	0.0%
19 子どもは、友だちに対して思いやりを持ち、お互いに協力している	27.0%	68.3%	4.8%	0.0%
20 子どもは、家庭で任された役割があり、実行している	28.6%	47.6%	19.0%	4.8%
21 子どもは自分の長所に気づいている	3.2%	52.4%	41.3%	3.2%
22 子どもの自己肯定感が高まっている	3.2%	63.5%	33.3%	0.0%

教職員	実現度			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1 児童生徒は、将来の夢や希望を描けている	13.2%	81.6%	5.3%	0.0%
2 児童生徒は、「共通教科」で満足感や達成感をもっている	23.7%	65.8%	10.5%	0.0%
3 児童生徒は、「専門教科」で満足感や達成感をもっている	21.1%	57.9%	21.1%	0.0%
4 児童生徒は、「職場等実習」で満足感や達成感をもっている	38.5%	59.0%	2.6%	0.0%
5 児童生徒は、企業のご協力により実習ができていることを理解している	30.8%	53.8%	15.4%	0.0%
6 児童生徒は、地域のご協力により演習ができていることを理解している	28.2%	48.7%	23.1%	0.0%
7 児童生徒は、個別の包括支援プランに沿った「生きる力」を身につけてきている	15.4%	79.5%	5.1%	0.0%
8 個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導を行なっている	20.5%	69.2%	10.3%	0.0%
9 学習効果を上げるため、指導法の改善に取り組んでいる	43.6%	51.3%	5.1%	0.0%
10 児童生徒の努力や達成度について適切に評価し、個別の包括支援プランの作成や指導法の改善にいかしている	31.6%	63.2%	5.3%	0.0%
11 児童生徒が次の目標を持てるような評価をし、児童生徒に伝えている	35.9%	61.5%	2.6%	0.0%
12 個別の包括支援プランを基に、短期目標や評価を保護者に適切に伝えている	48.7%	51.3%	0.0%	0.0%
13 児童生徒や保護者と卒業後の進路や生活について話をして共有できている	41.0%	59.0%	0.0%	0.0%
14 保護者からの個別の相談に適切に対応している	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
15 保護者は、本校の教育の趣旨や目的を理解している	24.3%	70.3%	5.4%	0.0%
16 児童生徒は、自分から挨拶をしたり、場に応じた言葉遣いで話すことができている	15.4%	66.7%	12.8%	5.1%
17 児童生徒は、健康な生活を送ることを意識して、自分なりの維持管理に取り組んでいる	15.4%	74.4%	10.3%	0.0%
18 児童生徒は、学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	23.1%	74.4%	2.6%	0.0%
19 児童生徒は、友だちに対して思いやりを持ち、お互いに協力している	28.2%	71.8%	0.0%	0.0%
20 児童生徒は、学校で任された役割があり、実行している	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
21 児童生徒が自己理解を深められるような取組をしている	25.6%	69.2%	5.1%	0.0%
22 児童生徒の自己肯定感が高められるように意識して指導にあたっている	35.9%	64.1%	0.0%	0.0%
23 教職員間での報告・連絡・相談を常に意識し、情報の共有に努めている	35.9%	56.4%	7.7%	0.0%
24 全教職員が「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている	52.6%	44.7%	2.6%	0.0%
25 児童生徒や保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している	55.3%	39.5%	5.3%	0.0%

肯定的回答の割合が、平均で86.9%と高くなっています。特に項目4、9において非常に高い評価である。項目1、18、19については、前回(昨年度の前期)に比べ肯定的回答の割合が大幅に上がっています。ウズコロナの時代になり、学びの形態や生活面での制限が減ってきていることが、学ぶことの喜びや、より意欲的に学習・生活しようとする姿勢につながっていると考えられる。また校内研究の取組を通して生徒の自己理解がすすみ、学習面・生活面での自信が生まれてきた結果であるとも考えられる。項目12の結果については、しっかりと対応していく必要がある。相談したいけれどその機会を逸しているのか、そもそも相談したいと思わないのか、その必要がないのか。何を相談したらいいのかがわからないのか。いろいろ考えられるが、日頃の言葉かけや面談の持ち方等、必要なところは工夫・改善を重ね、今後も取り組んでいく。

個別の包括支援プランを軸に、目標や評価を適切に生徒・保護者に伝え(項目12)、計画的な指導を行なう(項目8)ことができている、と捉えている傾向がうかがえる。項目3、13については、生徒・保護者のアンケート結果とは隔たりがある。特に項目13の結果については、常に心に留めたうえで取り組む必要がある。日常の言葉かけやさりげない称賛も含め、傾聴と共感の姿勢を忘れず対応していくことで、より信頼関係を深められるように取り組みたい。